将来の福島県への願い

白河市立白河第二中学校 ２年　鈴木　凛

　東北地方に大きな被害をもたらした東日本大震災から12年が経っている。しかし、まだ被害が残っている場所があるのも事実だ。

　夏休み、私は家族で浜通りに旅行に行った。その時に、車で双葉町を通った。ふと外を覗いたら、見えたのは雑草が生い茂っているだけの何もない広い土地だった。震災から10年以上経って、だいぶ復興しているなと思っていたのだが、実際に大きな被害が出ていた場所を見て「ああ、まだまだなんだな」と感じた。

　風評被害は、完全に無くなった訳ではない。これから福島をもっと宣伝して、支援に力を入れて、あの寂しい土地がたくさんの建物であふれて、にぎやかになっていて欲しい。

将来の福島県への願い

郡山市立明健中学校 1年 伊藤　蘭良

　私がこれからの福島に願うこと、それは、みんなが楽しく、幸せに過ごせるようになってほしい。ただそれだけです。東日本津波・原発事故大震災の事について学び、平凡で、いつも通りの生活を送れていることが、この上ない幸せなんだと、気づかされました。実際に、自宅が帰還困難区域にあり、自分のふるさとに戻れていない人がたくさんいます。

　その状況を自分の事として考えてみると、すごく辛いです。なので、すべての避難区域が解除され、みんなが、完璧には無理かもしれないけど、元のような生活に戻ってほしいです。「幸せに過ごせる」を具体的に言うと、地域の方々との繋がりを大切にし、いざというときは助け合える、そんな福島を私達の努力でつくっていきたいです！

26W x 19L = 494(315)

将来の福島県への願い

白河市立白河第二中学校 ２年　穂積　響

　僕は東日本大震災の時一歳だったためどのくらいの被害をうけたのかが分からない。ただ、震災後の復興への取り組みにはとても驚いたことがあった。三年ほど前に、いわき市の海を一目見ようと思い、家族と一緒に見に行ったときがあった。そのとき見たのは、海とともに日光の反射で光る防潮堤だった。別の場所では海岸林が新たに植えられていた。とてつもない数だった。まるで、この防潮堤や海岸林は震災の記憶をやどしているようだった。僕が将来の福島県に願うことはこの震災の記憶を風化させないこと。十年たとうが百年たとうが、記憶は次につたえることができる。つないでいってほしいのが僕の願いだ。

26W x 19L = 494(281)

将来の福島県への願い

白河市立白河第二中学校 ３年　笹山　峻

　気候に恵まれ、海産物や果物で溢れている福島。僕は、この15年間、福島で多くの「温かさ」に触れてきた。

　３.１１のあの日、福島県は大きく揺れ、１１メートルを超す津波に飲み込まれた。原発事故による風評被害は酷く、日本各地、さらには世界から冷たい目を向けられた。最近では、処理水の海洋放出もあり、今もなお福島への非難が続いている。

　「復興」の２文字を掲げ、震災前に近い姿に戻りつつある福島。これからの僕たちは、この福島をどんな場所にしていけるのだろう。

　300字で全てを伝えるのは難しいが、時間とともに変化し続ける場所で良い。そして、「温かい」ふるさととして残る場所。そんな福島になることを願い、僕は進んでゆく。

26W x 19L = 494(307)

将来の福島県への願い

南相馬市立石神中学校 ３年　猪苅　健斗

　福島県は、2011年の東日本大震災で、大きな被害をうけました。しかし、12年の時を経て被害があったところも復興しつつあります。

　私が将来の福島県に願うことは、風評被害をなくすことです。原発の事故や処理水の問題で、福島県産の食べ物などの風評被害は今も残っています。だから処理水については、科学的根拠をもとに、もっと安全性をアピールして、風評被害にならないようにしてほしいです。

　福島県には安全でおいしい食べ物がたくさんあります。これからの福島は災害にも気をつけて風評被害などなく福島は良いところをいっぱいアピールしていって福島は良いところだとみんなが思ってほしいです。